

日 時 平成26年10月11日(土) 9:00~9:45

場 所 附属中学校調理室

指導者 三好 智恵

本授業の主張点

製作物のできばえを振り返り、児童が結果を評価していきます。できなかったことに対して改善点を考えたり、できたことに対してもできた理由を明らかにし、更に状況が変わった場合についても考えたすることで、次のよりよい実践へとつながる見通しをもつ姿をご覧ください。

1 題材名 生活に役立つものをつくろう

2 題材の目標

身近な布を使って製作することに興味をもち、ミシンを正しく安全に扱いながら生活の中で使う布製品を製作する活動を通して、作る楽しさやその有用性を感じ、布を用いた生活をよりよいものに行うことができる。

3 評価規準「学力デザイン レベル2より」

- 生活の布製品に関心をもち、布を用いて生活に役立つ物を製作することに意欲をもって取り組み、製作物を活用することで布のある生活のよさを感じている。(家庭生活への関心・意欲・態度)
- 作る相手や目的に応じた形や大きさ、縫い方、布の選び方などを工夫して製作する物を考えたり、計画を立てたりしている。(生活を創意工夫する能力)
- 目的に応じた大きさや形、縫い方などを考えて生活に役立つ布製品を製作することができる。(生活の技能)
- ミシンの仕組みや安全な使い方、製作の仕方を理解している。(家庭生活についての知識・理解)

4 題材設定の理由

(1) 児童について

本学級の児童は、週末に朝食作りに取り組んだり、夏を快適に過ごすための工夫に取り組んだり、家庭科に対し高い関心をもって取り組んでいる。5年生で取り組んだミシンの題材においても、ランチマットやウォールポケット、クッションなど、自分や家族などが使って生活に役立つ布製品作りに取り組んできた。ミシンを使って製作を行う本題材を楽しみにしている児童も、39名中28名とたいへん多い。その理由として、「自分で考えた物を作ることができるから」、「作ったものを自分で使えるから」、「ミシンを使うのが好きだから」などを主な理由として挙げている。しかし、家庭でミシンを使って製作に取り組んだという児童はほとんどいない。その理由としては、家にミシンが無い、ミシンを扱うのが怖い、作る時間が無いなどが挙げられた。本題材開始にあたって、児童は、小物入れ、エプロン、クッションなど、身近にあり実際に使える物を作りたいと意欲をもっている。

今年度学習した「めざせ朝食☆☆☆シェフ」や「工夫しようさわやかな生活」などの学習において、複数の選択肢のメリットとデメリットをもとに価値項目を考え決定する活動に取り組んだり、自問自答しながら計画を見直したりしてきた。しかし、製作物や調理したものをもとに自分の行動を振り返り、次の実践にいかしていこうと意識を向ける児童はまだ少ない。よりよい実践につなげるためにも、結果を評価し、それを次の実践へとつなげる活動を行っていかねばならないと感じる。

(2) 題材について

本題材は、「C 快適な衣服と住まい」(3)「生活に役立つ物の製作」のア、イ、ウと「A 家庭生活と家族」(3)「家族や近隣の人々とのかかわり」アとの関連を図っている。

児童は、ミシン縫いの知識や技能を身に付け生活に役立つ物を作るという経験を通して、物を生み出す楽しさや、使ってもらえる喜びを感じるようになることを考える。また、これまで漠然と見ていた身の回りの布製品を、素材や使われる目的、相手、さらには縫製の良し悪しなどに注意してとらえられるようになることを期待する。第5学年において、ミシンの扱い方を知り、ランチマットやウォールポケットなどの製作を通して、簡単な布製品の製作に取り組んできた。本題材においては、入れるも

の大きさに合わせたゆとりを考えたり、形を工夫して作ったりすることへと発展することができる。また、自分や家族が使って役立つ布製品を製作に取り組むことで、これからの生活をよりよくしようとする能力と態度を育む「学力デザインのレベル2」の姿を目指すことができる題材となっている。

題材の中で、学習の目的に合わせて製作物を変え繰り返し取り組ませるように設定することで、製作物をもとに自分の行動を振り返り、改善点や良かった点などを次の実践につなげる活動に繰り返し取り組むことができる。

(3) 指導について

題材の指導計画を作成するにあたり、共同課題・個人課題・パフォーマンス課題などの課題を設定することで、意思決定のプロセスを繰り返し行うことができるようにする。また、パフォーマンス課題を単元の導入時に示し、どのような知識や技能を身に付けていかなければならないのかという見通しをもたせるようにする。

指導にあたっては、まず、布製品に関心をもたせるために、布の特徴を調べる布調べを行う。布調べを通して、目的に合った布を選び、適切に製作することができるようになってほしい。次に、体に合わせて形や大きさを工夫して製作する物を学習させるために、図工室で使用するためのアームカバーの製作を行う（共同課題）。グループで製作物を選ぶにあたり、自分にはない価値の捉え方があることにも気付かせ、よりよい決定の仕方も身に付けさせていく。さらに、家族が使って役立つ布製品の製作に取り組ませていく（個人課題）。個人課題に取り組ませることで、自分の計画が最善に感じられたり、他者へのアドバイスを真剣に行わなかったりしがちである。改善するために、計画に対して教師が材料や手順などの「計画の問題点」を問うたり、「価値項目ランキングを生かしたか」と問うたりしながら自問自答させ、見直しを行わせるようにする。最後に、「2時間で学校生活で役立つ布製品をつくろう」という課題（パフォーマンス課題）を設定し取り組ませる。パフォーマンス課題に取り組むことで、これまでに学習した知識・技能を活用して取り組むことができるようにする。

本時においては、学校生活で役立つように考えた製作物を振り返り、よりよい実践へとつながる見通しをもつ活動「やってみタイム」に取り組んでいく。よりよく製作できるように示しておいた「できばえ」設定しそれぞれの項目については、具体的な内容を示しておくことで、振り返りやすくしておく。結果を振り返り、できなかったことに対しては改善策を考え、次に行う際の見通しとする。また、できたことに対してもその理由を明らかにし、さらに、状況が変わった場合についても考えさせることで、次のよりよい実践へとつながる見通しをもつことができるようにしていく。

5 指導計画（全 11 時間）

は視点に、および視点に関わる内容

過程	時数	学 習 活 動	指導上の留意点と教師の働き掛け（・）	評 価
み つ め る	1	1 身近な布製品を観察する。 2 題材の流れや題材を貫く問いを知る。	<ul style="list-style-type: none"> 身近な布製品を持ち寄り、観察させることで布や布製品作り方に対する関心を高める。 題材に対する期待や学習の見通しを持たせるために題材の流れ、題材で用いるワークシート、パフォーマンス課題、資料をとじた物を配布しておく。 	関
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">【問い】自分の生活を便利に楽しくするものとは？</div>				
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">布の選び方を考えよう。</div>				
		3 布の伸び方について知る。 4 いろいろな布とその特徴を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 布の伸び方の違いに気付かせるために、縦や横、斜めに引っ張らせる。 布の構造の違いを理解させるために、それぞれの布を虫めがねで拡大して見るようにしたり、糸をほどいてみたりできるようにしておく。 	知

ふ か め る	図工室で使って便利なアームカバーをつくろう（共同課題）		創
	2	1 図工室で使うための製作物は何がいいか考える。（カフエプロン・アームカバー・小物入れ） (1) 3つの製作物の情報を整理する。 (2) メリット・デメリットを考える。 (3) 製作物の価値項目を出す。 (4) 個人による製作物を決定する。 (5) グループによる製作物を決定する。	
	3	2 製作に取り組む。	技 関
	4	3 製作物を振り返る。	
い か す	2時間で、家族が使って役立つ布製品（中にもものを入れる）を作ろう（個人課題）		創
	5	1 何を製作するか決める。 (1) 3つの製作物の情報を整理する。 (2) メリット・デメリットを考える。 (3) 製作物の価値項目を出す。 (4) 個人による製作物を決定する。	
	6	2 製作計画を立て、製作計画を見直す。	技 関
	7	3 製作に取り組む。	
8	4 製作物を振り返る。		
い か す	2時間で、学校生活で使って役立つ布製品を作ろう（パフォーマンス課題）		創
	8	1 何を製作するか決める。 (1) 2つの製作物の情報を整理する。 (2) メリット・デメリットを考える。 (3) 製作物の価値項目を出す。 (4) 個人による製作物を決定する。	
	9	2 製作計画を立て見直す。	技 関
	10	3 製作に取り組む。	
11 本時	4 行動を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に製作したものや、使用状況などを観察させることで、行動を振り返りやすくする。 ・ できばえをもとに振り返らせ、できた（青）できなかった（赤）のシールを貼らせることで、視覚的に分かりやすくさせる。 ・ 2人組みで振り返らせることで、複数の目で評価できるようにする。 ・ 改善策を考えさせたり、できた理由や状況が変わった場合について考えさせたりすることで、次の実践への見通しにつなげる。 	創

6 本時の指導（本時 11/11）

(1) 目標

行動を振り返り、製作物や実践計画の改善点やよくできた理由、状況が変わった場合などについて考え、次の実践への見通しをもっている。 （創意工夫する能力）

(2) 展開

※ は視点に関わる部分

過程	学 習 活 動	教師の働き掛け (○) 形成的評価 (◆)
み つ め る	<p>1 本時のめあてを知り、活動（やってみタイム）の流れをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 学校生活で役立つ布製品作りでの製作物のできばえを振り返り、今後にかそう。 </div> <p>2 パフォーマンス課題、実施計画を確認する。</p>	<p>○ 本時の流れを確認することで、「やってみ」ことを振り返り、次の「やってみたい」につなげる「やってみタイム」であることを伝える。</p> <p>○ 前時までの学習を振り返らせるために、パフォーマンス課題を確認したり、課題解決のために考えた価値ワードランキングや実施計画について振り返ったりする。</p>
さ ぐ る	<p>3 学校生活で使用している製作物を確認し、できばえについて振り返る。</p> <div style="margin-top: 10px;">  <p>計画通りに製作することができたから、「手順」は合格だ。</p> </div> <div style="margin-top: 10px;">  <p>小物入れの出し入れ口が、ほころび始めてしまった。丈夫さの点では、十分ではなかった。</p> </div>	<p style="text-align: right;">【やってみタイム】</p> <p>○ 「役立つ物」「手順の工夫」「丈夫さ」「時間」の4つの観点について具体的な基準を示しておくことで、行動を振り返ることができるようにする。</p> <p>○ 友だちと共に振り返らせることで、複数の目でできばえについて評価することができるようにする。</p> <p>○ 4つの観点のできた事柄については青シール、できなかった事柄については赤シールを貼らせることで、視覚的に振り返った内容を分かりやすくする。</p>
ふ か め る	<p>4 できばえの振り返りをもとに、次への見通しにつなげる。</p> <p>(1) できなかったことについて振り返り、改善策を考える。</p> <div style="margin-top: 10px;">  <p>重い物を入れたら、布が破れそうになっている。丈夫にするためには、厚い布を使う方がよかったな。</p> </div> <p>(2) できたことについて振り返り、できた理由を明らかにしたり、状況が変わった場合について考えたりする。</p> <div style="margin-top: 10px;">  <p>学級に本を貸し出すためのブックバック。低学年用は大きな絵本サイズにしてよかったな。</p> </div> <div style="margin-top: 10px;">  <p>私は、小さな単行本しか借りないので、小さなサイズのブックバックを作るといいな。</p> </div> <div style="margin-top: 10px;">  <p>習字用のアームカバーは、そで口が汚れず、とてもよかった。</p> </div> <div style="margin-top: 10px;">  <p>家で家事をする時は、水で洗ったりするから、布の素材はこのままでいいのかな。使うときの目的に合った素材のものを考えなければいけないな。</p> </div>	<p>○ できなかったことについて振り返り改善策を考えさせるために、その問題点は計画にあるのか、価値ワード自体や価値ワードランキングにあるのかについて問い掛ける。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆ 製作物の改善点やよくできた理由、状況が変わった場合などについて考え、次の実践への見通しをもっているか。 （ワークシート・行動観察）</p> <p>A 今後の家庭での実践を見据え、振り返ったことを生かし、具体的な見通しをもつことができている。</p> <p>B 改善点やよくできた理由について考え、見通しをもつことができている。</p> <p>→ 今後、自分の家庭で取り組んだり、材料や目的が変わったりといった状況が変わった場合について問い掛ける。</p> <p>C 次への見通しが持てず、今回の行動に満足している。</p> <p>→ できばえの4つの項目を振り返らせ、改善策やよくできた理由について考えるように促す。</p> </div> <p>○ 改善策について単元を通して緑色のペンで記入させることで、振り返りを次の見通しへつなげやすくする。</p> <p>○ できた理由について考えたことや状況が変わった場合について考えたことを表出させるために、付せん考えたことを記入することができるようにしておく。</p> <p>○ 状況が変わった場合について考えさせるために、具体例を示したり児童の記述を紹介したりする。</p>
い か す	<p>5 振り返ったことを交流し、今後の実践への意欲へつなげる。</p>	<p>○ 実践への見通しをもたせ意欲を高めさせるために、複数で交流をしたり、全体で紹介したりする。</p>

